

ミヤマアオダモ *Fraxinus apertisquamifera* H.Hara

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 13。温帯性の樹木で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

落葉性の小高木。高さ 7～8m になり、枝はやや細く無毛である。葉は対生し、奇数羽状複葉、葉柄を含めて長さ 10～20cm、葉柄や羽軸は無毛である。小葉は 7～9 個、長楕円形、長さ 4～12cm、幅 1.5～4cm、先端は鋭尖頭、辺縁には細鋸歯があり、裏面の中肋沿いに開出毛がある。冬芽の鱗片は、先端が開出する。花期は 5 月、新枝の先端に円錐花序をつけ、花は白色、花弁は 4 個で線形である。翼果は狭倒披針形、長さ 2.5～3cm、幅約 5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (芹沢 82895, 2008-6-7)、4 津具 (小林 38417, 1992-7-25)。茶臼山周辺の狭い範囲に生育しているだけである。

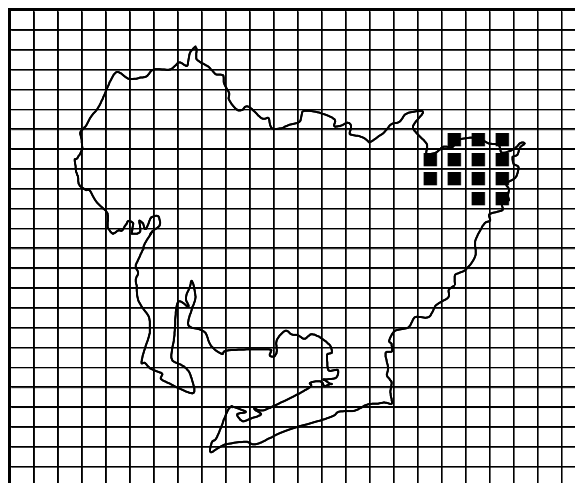
【国内の分布】

本州 (中部地方)、四国に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

少数の個体が点在している。萩太郎山では、スキー場造成によりほとんど消滅した。

【保全上の留意点】

茶臼山一帯は、愛知県の中では温帯性の植物が集中して生育している。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発は避けるべきである。

【特記事項】

冬芽の鱗片の先が開くことが特徴である。

【関連文献】

保木本 I p.93, 平木本 II p.176, 平新版 5 p.62.